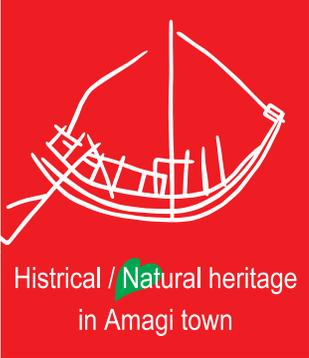
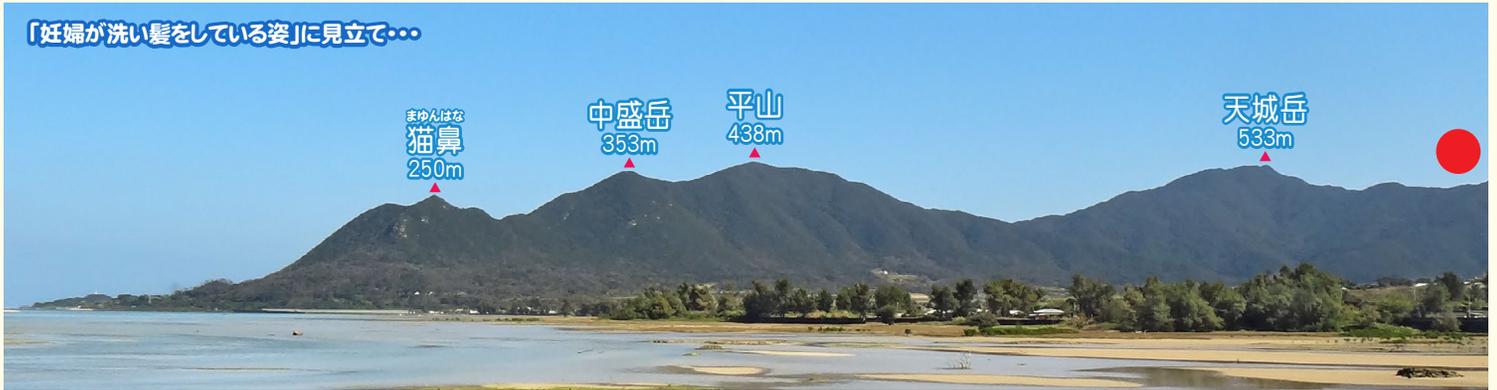


誰が呼んだか？ 『寝姿山』景色と自然



天城町北部に横たわる連山は、地元松原では昔から**ニシヤマ**と呼ばれてきました。ニシは島口で方角の北を表しています。昭和53年(1978年)に編さんされた天城町誌には「最近猫の鼻から右側に並んでいる山々を総称して**寝姿山**とっている。」とあります。昭和40年代になると高度成長で生活が豊かになり、旅行する余裕ができたこと、南国への新婚旅行がブームとなり、徳之島にも旅行客が訪れるようになりました。そうした旅行客のなかに、伊豆下田の「寝姿山」を訪れたことのある人がいて、元祖寝姿山？よりリアルなシルエットのニシヤマを見たとき、思わずその名を口にしたのではないのでしょうか。また、沖縄の本土復帰は昭和47年(1972年)。徳之島空港の供用開始は昭和37年(1962年)で、奄美群島で最も早く、空路のみならず施設など受け入れ態勢が整っている島としては、実質的に国内最南端でした。ちなみに、小笠原は昭和43年(1968年)に本土復帰しましたが、今でも空港は無く船便だけです。足先にあたる天城岳は、天城町誌編さん当時でも、大島支庁林務課の資料には**天城岳(雨気岳)**と書かれているとあり、昔から雲のかかり具合を眺めて雨を予想する山として親しまれてきたので、雨気岳を使う人がまだまだ居たようです。山々の森には、アマミノクロウサギやオビトカゲモドキ、アマミマルバネクワガタなど希少な動物をはじめ、ハツシマカンアオイなどの固有植物も生息しています。



見る場所や天候で印象が変わる



天城岳のふもとにあるカームイ滝



希少な動植物たち



もっと情報が見られる
電子版はこちら

